

西南学院小学校 学校長メッセージ

「学校通信 Wings 2020年12月号」

今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。

この方こそ主メシアである。

ルカによる福音書 8章 11節

12月に入りました。西南学院中学・高校の校舎外側には大きなクリスマスツリーのイルミネーションが輝き、西南学院小学校のアトリウムには、大きなクリスマスツリーが飾られました。今年はいつもととは違うクリスマスを迎えることになりそうですが、クリスマスを迎える喜びは、たとえどのような闇の中であつてもきつと輝くものであるにちがいません。うつむいてしまつて希望の光を見失つてしまうことのないようにしたいものです。

一旦落ち着きを見せていた新型コロナウイルス感染症ですが、再び感染が拡大してきました。これから冬を迎え、インフルエンザの流行も心配されます。感染予防の強化策として、各教室に加湿器とサーキュレーターを設置することにしましたが、ご家庭でも引き続き予防の取組みをお願いします。

ところで、10月のスポーツ集会に続いて、11月には1.2年生がネイバーピクニックで福岡市動植物園に、3.4年生がネーチャーピクニックで夜須高原自然の森に出かけました。3.4年生のピクニックに同行しましたが、爽やかな秋空と鮮やかな紅葉のもと、4年生の実行委員のリードので、みんなでクイズやゲームを楽しんだり、縦割りのグループで仲よく遊んだりすることができました。ネイバーピクニックも2年生が1年生をしっかりお世話することができていたとのこと。ピクニックの後、1年生と2年生が書いた作文をご紹介します。

(1年生女子)ネイバーピクニックで「二ねんせいはずごいな。」とおもいました。なぜなら、ちずを見て、さきと「つぎは、ここに行くよ。」とおしえてくれるからです。二ねんせいは、やさしくて、「たくさん見せて。」といったら、すぐに見せてくれて、もう、一ねんせいになったときからのなかよしのともだちみたいでした。こんどわたしが二ねんせいになったら、つぎの一ねんせいにやさしく、二ねんせいのようにしたいです。二ねんせい、ありがとう。

(1年生男子)～一ばんうれしかったことは、ぜんぶ見られたことです。なぜぜんぶ見られたかというのと、とけいがかかりリーダーがしっかりしていたからです。ぼくもらいねん二ねんせいだからいまの二ねんせいみたいに、くふうしてがんばりたいです。～

(2年生女子)わたしは、リーダーになれてとてもうれしかったです。でも、どうぶつ園では、リーダーはとてもたいへんでした。だけど、さいごらへんはちがいました。一年生がきをつかって、はしらずついてきてくれました。わたしは、その一年生のおかげで、さいごはうれしい気分で帰ることができました。そして、もう一つ一年生にありがたいと思うことがあります。それは、わたしがなんのどうぶつか分からなくて、ちずを見ようとしたら、「これは～だよ。」といって教えてくれたことです。わたしでも分からないどうぶつをしゃべっているなんてびっくりして、おもわず「すごいね！教えてくれてありがとう！」といつてしまいました。一年生にもいっぱいおれいをいって、もっとなかよくなりたいたいです。～

現地での3.4年生の姿を見て、また1.2年生の作文を読んで、改めて学校行事の大切を感じました。教

室での授業だけでなく、行事での様々な経験を通して子どもたちは、協力することの大切さやよさ、お互いによいところがあることなどを実感し、成長していきます。今回のピクニックでは、上の学年の子どもたちは自分たちがリーダーとしてがんばることができたという達成感や自己有用感を、下の学年の子どもたちは来年自分たちがリーダーとしてがんばるという目標を、それぞれに持つことができたことが、大きな収穫になったことでしょう。一日も早く日常が戻ることを祈りつつ、それまでは子どもたちのよりよい成長のためにできる範囲でできることを積み重ねていきたいと思います。

文責 宮崎 隆一